

<北海道熊研究会報>

第 24 号 2014 年 4 月 9 日

ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

<4月4日瀬棚町で「アイヌ」A.victorialis」採りの女性が熊に襲われ、同行の男性が、鉈で熊を叩き、難を逃れる>

苫小牧在住の45歳の女性と60代の男性が、4月4日、午後2時頃、瀬棚町太田の山林で、アイヌを採り、帰路を歩いていたところ、突然背後から熊が現れ、女性に襲い掛った。女性は咄嗟に右手で、熊を除けようとしたとたん、熊は女性の上腕部を「咬んだ(引っ掻いたのではないらしい)」。連れの男性が咄嗟に、携帯していた鉈で熊に立ち向かい、鉈で熊を叩きつけたところ(部位は不明)、熊はすぐに逃げた、と言う。男性は勢い余って、鉈で自分の脚部を傷つけた(らしい)[以上、瀬棚警察署の話、門崎が聴取]。

<今回の加害熊は昨年(2013年)4月16日、同町の西和子さん(52歳)を襲い殺し、四肢(手足)の筋部を喰った熊と同一個体だと言う>

その根拠は、昨年現場で見つけた熊の毛と今回現場で採取した熊の血痕のDNAが一致したからだと言う：北海道新聞4月7日夕刊掲載)。昨年の記録では、襲った熊は単独個体で、「ハンターの見解」では加害熊は年齢3歳程であろう、と言うとある(本会報の8号に掲載)。とすれば、今は4歳程である。報道では、体長2m程と言うが、そのような大きな熊は道南には居ない(門崎の見解：道南の熊は道東・道北の熊に比べ、身体が小さい)。

<以下は門崎のコメント>

熊が人を襲う原因は①排除、②喰うため、③戯れのため、であるが、今回この熊が人を襲った原因は不明である。熊は今回這った状態で被害者を襲った可能性がある。その理由は、昨年の経緯から今回の熊は4歳程の若い熊である。4月4日と言う日には、この熊にとっては、穴出後数日しか経ていない状況にあり、そのような熊は未だ立ち上がって人を襲う筋力が充分付いて居なく、通常這った状態で、人を襲うのが通例である事による。

<鉈で応戦し、熊を撃退したことは、正法である>

私は熊の調査研究を始めた当初(1970年)から、熊が居そうな地所に入る場合は鉈を携帯すべき

事を言い続けてきた。それは、私が中学生だった昭和 27 年(1952 年)家族で、十勝の御影の剣山 1204m に登山に行った時、山仕事をしていた父が鉈を持って行った事、そして、鉈は色々な事に使えて山では必需物であることを教えられた事が契機である。以来私は高校・大学で山岳部に入り、山の跋涉を楽しんだが、鉈は四季携帯した。鉈は昔から「山子ヤコ」(山の労働者)の命綱とも言われた居た。熊に襲われて生還するには、鉈を携帯し、それで反撃することだ。素手ではどうしようもない。襲われた場合には死にものぐるいで反撃すること。実際に熊に襲われ生還した者は、皆何らかの方法で熊に反撃している(襲われたら反射的にもがき反抗するものだが)。逆に死者は皆素手で熊に対抗し落命している事実を直視することである。襲い掛かって居る熊に反撃すれば、熊が更に猛り、被害が大きくなるのではないかと、想像で反論する者がいるが、過去の事例を検証した限り、そう言う事例は全く無く、それは杞憂に過ぎぬ事は明白である。今回の事例はそれを実証した事になる。

熊ばかりでなく、動物に襲われて、その難から身を守る原則は、攻撃して来るものに対し、積極的に反撃し、相手に「かなわないと言うことを悟らせる事が原則であることは、人を含む動物界における基本原理常識である。

<山菜採りし得る所は熊の生活地であることを肝に命じる事>

ハンター以外の一般人が、北海道で熊に襲われた人身事故は、1970 年以降今日まで、年平均 1 件である。それも、ホイッスル(百円ショップで売っている)を時々吹きながら歩くことで、不意の出会いでの事故は防げる。極めて稀に今回の様に熊が襲って来る事があるが、これに対しては反撃以外手立てはない。死んだふりは論外(道庁のパンフレットでは、死んだふりを推奨し、新聞テレビに度々出て来る熊研究者の道職員の間野勉君もそれを推奨しているが「私は妄言と言いたい」理由は意識ある状態で、熊に爪や歯で引っ掛けられ齧られていて、それに我慢出来る人間などいない)。熊に人が襲われれば、その熊は殺されているのが実態である。熊がいる可能性が少しでもある場所に行く場合には、自己責任で用意ばんたんのもと、入域し、己の不注意、不用意で、自然(熊)に迷惑掛けてならないと言うのが私の主張。

<過去に、同じ熊が日を置いて、人を襲って事例>

1970 年以降、同一熊が、日を置いて、人を襲った事象は

- ① 1976 年 6 月 4 日～6 月 9 日、千歳市、3 人負傷 2 人死亡、加害熊 2 歳 4 ヶ月令の雌。
- ② 1977 年 5 月 27 日と 9 月 24 日、大成町、各 1 人死亡、加害熊 4 歳 8 ヶ月令の雌。

<過去に、同じ熊が連日、人を襲って事例>

- ① 1970 年 7 月 25 日～27 日、日高川イカサカ山、3 人死亡、加害熊 2 歳 6 ヶ月令の雌。
 - ② 1999 年 5 月 10 日～11 日、木古内町、2 人負傷 1 人死亡、加害熊 2 歳 3 ヶ月令の雌。
- 米) 熊の年齢は、いずれも、門崎が熊の歯のセメント層に出来る年輪数を算え確定したものです。

(了)